

開館 20 周年記念特別号

萩原朔太郎記念
水と緑と詩のまち

前橋文学館報

No.39 2013.12



（新連載）萩原朔太郎賞受賞者より

第一回 谷川俊太郎氏（第一回受賞者）

開館20周年を記念して、今号より新連載を始めました。

川のほとりに

前橋文学館開館二〇周年に寄せて

谷川俊太郎

川のほとりに詩が佇んでいる

石に刻まれて誇り高く

時に所在なげに

一語は辞書から借りたとしても

一行はすでに心々の薄明の奥の

魂の深淵にひそんでいたのだ

詩の古里は詩人の故郷と違って

土地に根差しながら

星々のかなたに毛根をひろげる

捉え難い詩をつかまえようと

世俗と戦い続けた者たちが

無冠の称号のもとに集うところ

詩と散文がせめぎ合いながら

言葉を超えるリアルを探った戦跡

この館には王も妃もない

ただ真実への迂路をたどる

美しい日本語に眼と耳を新しくする

私たちがいるだけ

谷川 俊太郎 (たにかわ しゅんたろう)

1931年東京生まれ。1952年に詩集『二十億光年の孤独』刊行。その後、現在まで数多くの詩集、エッセイ集、絵本、童話、翻訳書がある。またほかに脚本、作詞、写真集、CD、カセットブック、ビデオなども手がける。

主な詩集に『六十二のソネット』（1953年）『日々の地図』（1982年）（読売文学賞）『コカコーラ・レッスン』（1980年）、翻訳に『マザー・グースのうた』（日本翻訳文化賞）『スヌーピー・ボックス』等がある。1993年に『世間知らズ』で第1回萩原朔太郎賞を受賞。